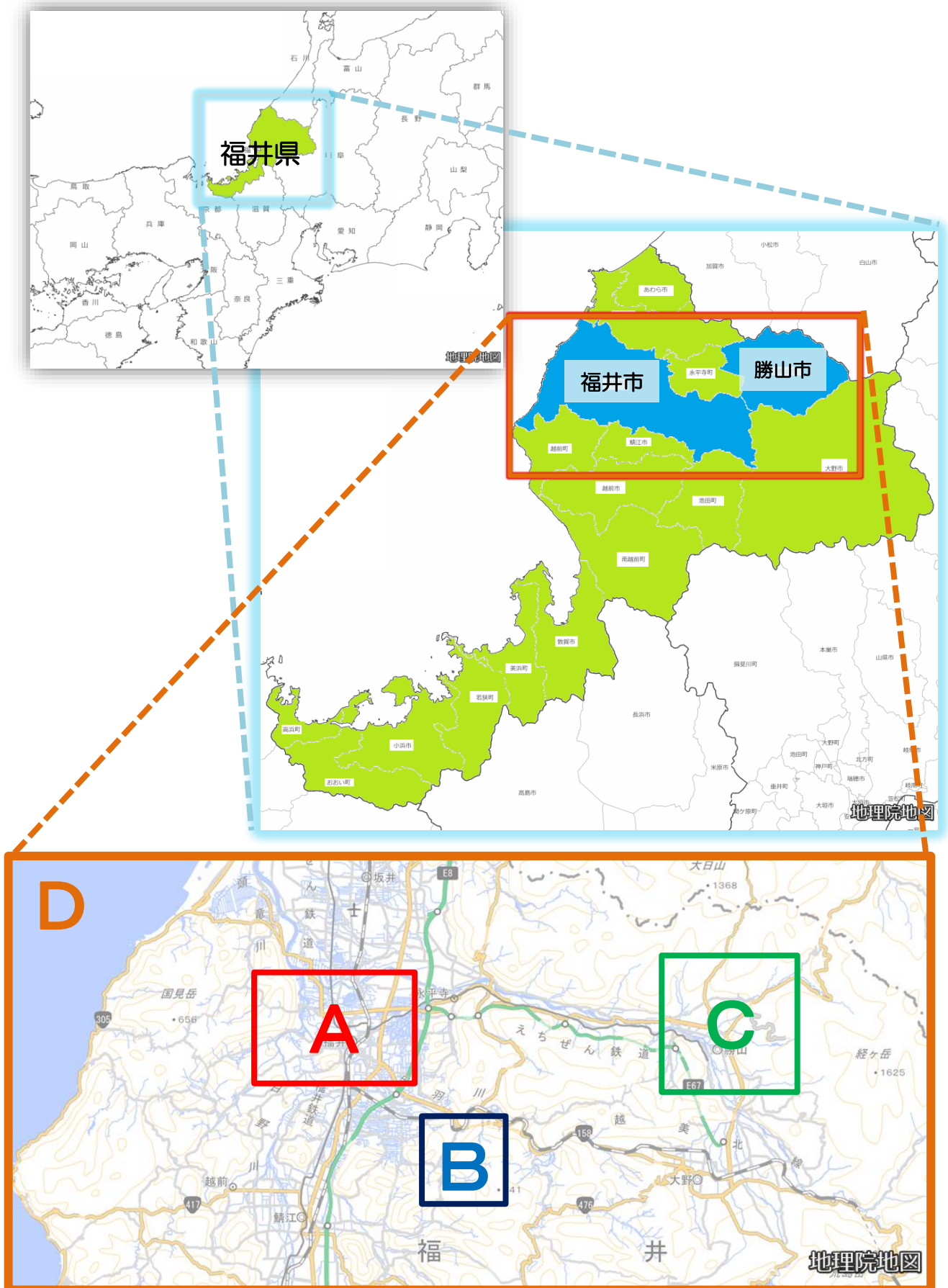


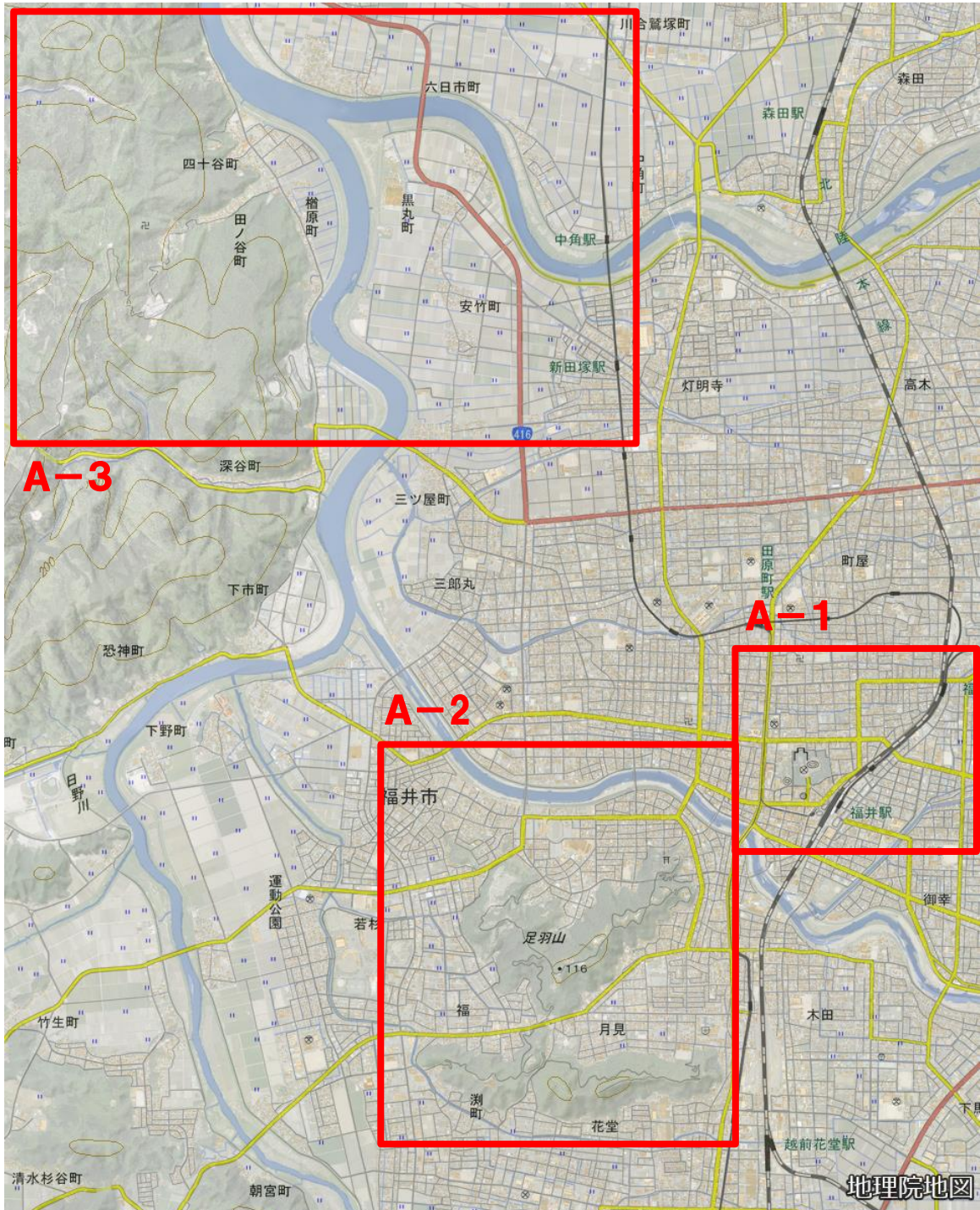
① 申請者	◎福井県 (福井市、勝山市)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E					
③ タイトル								
(ふりがな)	よんひゃくねんのれきしのとびらをあけるたび ～いしからよみとくちゅうせい・きんせいのまちづくり えちぜん・ふくい～							
400年の歴史の扉を開ける旅 ～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～								
④ ストーリーの概要 (200字程度)								
<p>越前・福井では、中世期に地方に生まれ、大量の石を用いて計画的につくられた都市が今も独特の空間を醸し出しています。また、近世期の城下町では、風景に溶け込んだ美しい青色の石が天候によって街並みの色合いを変化させ、自然の力が大地を階段状につくり上げた街の中心部には石の壁が続きます。</p> <p>様々な形に姿を変えて時代を越えてきた石が私たちを出迎える越前・福井は、日本人と石との共生の歴史や屈指の石づくり文化を体感させてくれる地です。</p>								
<table border="0"><tr><td data-bbox="209 902 667 1205"><p>一乗谷</p></td><td data-bbox="772 902 1230 1205"><p>平泉寺白山神社</p></td></tr><tr><td colspan="2" data-bbox="453 1173 810 1435"><p>笏谷石</p></td><td data-bbox="1002 1173 1385 1429"><p>福井城址</p></td></tr></table>				 <p>一乗谷</p>	 <p>平泉寺白山神社</p>	 <p>笏谷石</p>		 <p>福井城址</p>
 <p>一乗谷</p>	 <p>平泉寺白山神社</p>							
 <p>笏谷石</p>		 <p>福井城址</p>						

市町村の位置図 (地図等)

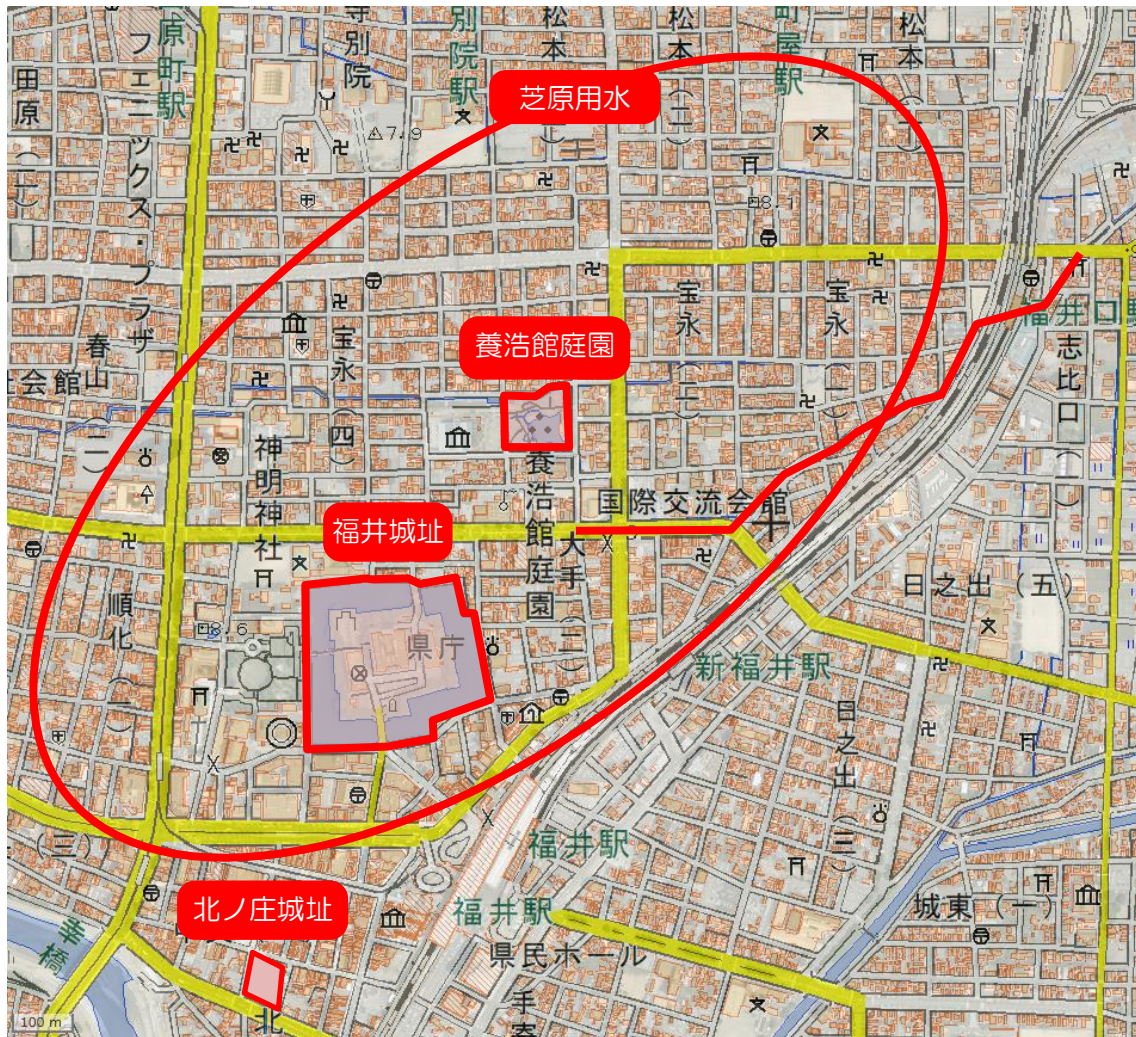


構成文化財の位置図 (地図等)

Aエリア <福井市街地>



A-1 【 福井城址、養浩館庭園 周辺 】



- | |
|----------|
| 13 北ノ庄城址 |
| 15 福井城址 |
| 16 芝原用水 |
| 25 養浩館庭園 |

A-2 【 足羽山・九十九橋 周辺 】



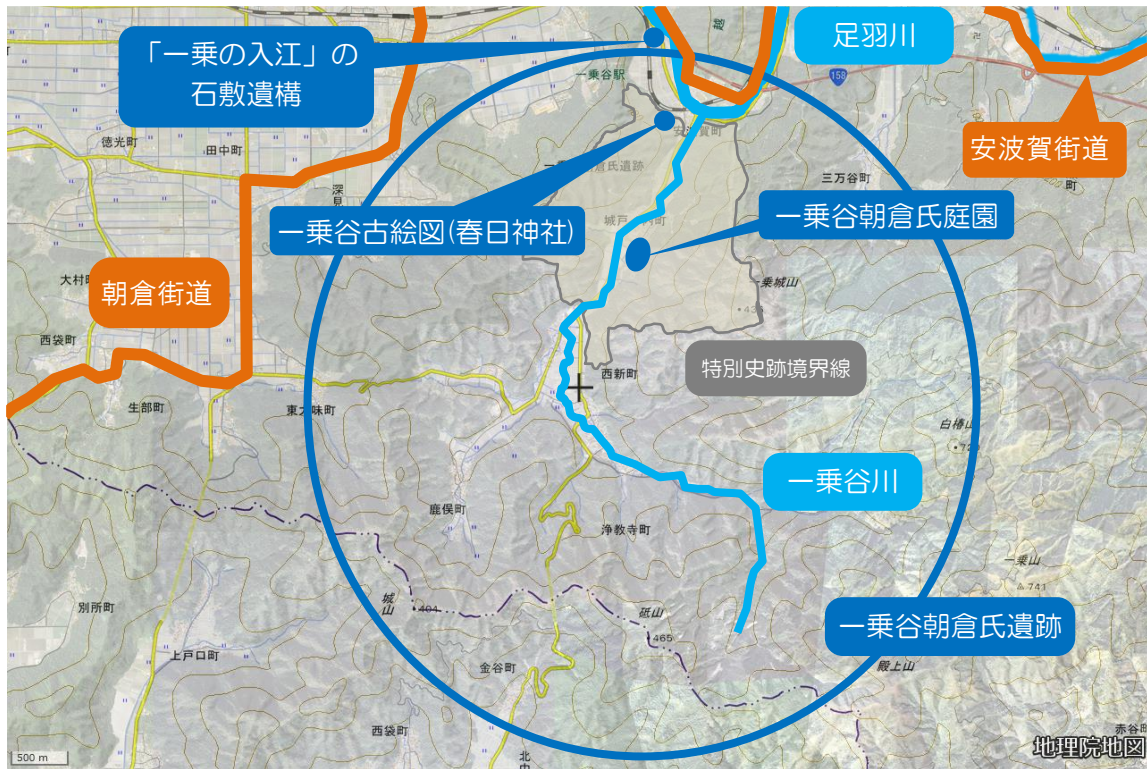
9	足羽川
14	九十九橋
17	丹巖洞
19	足羽山周辺の景観

A-3 【 大安禅寺 周辺 】



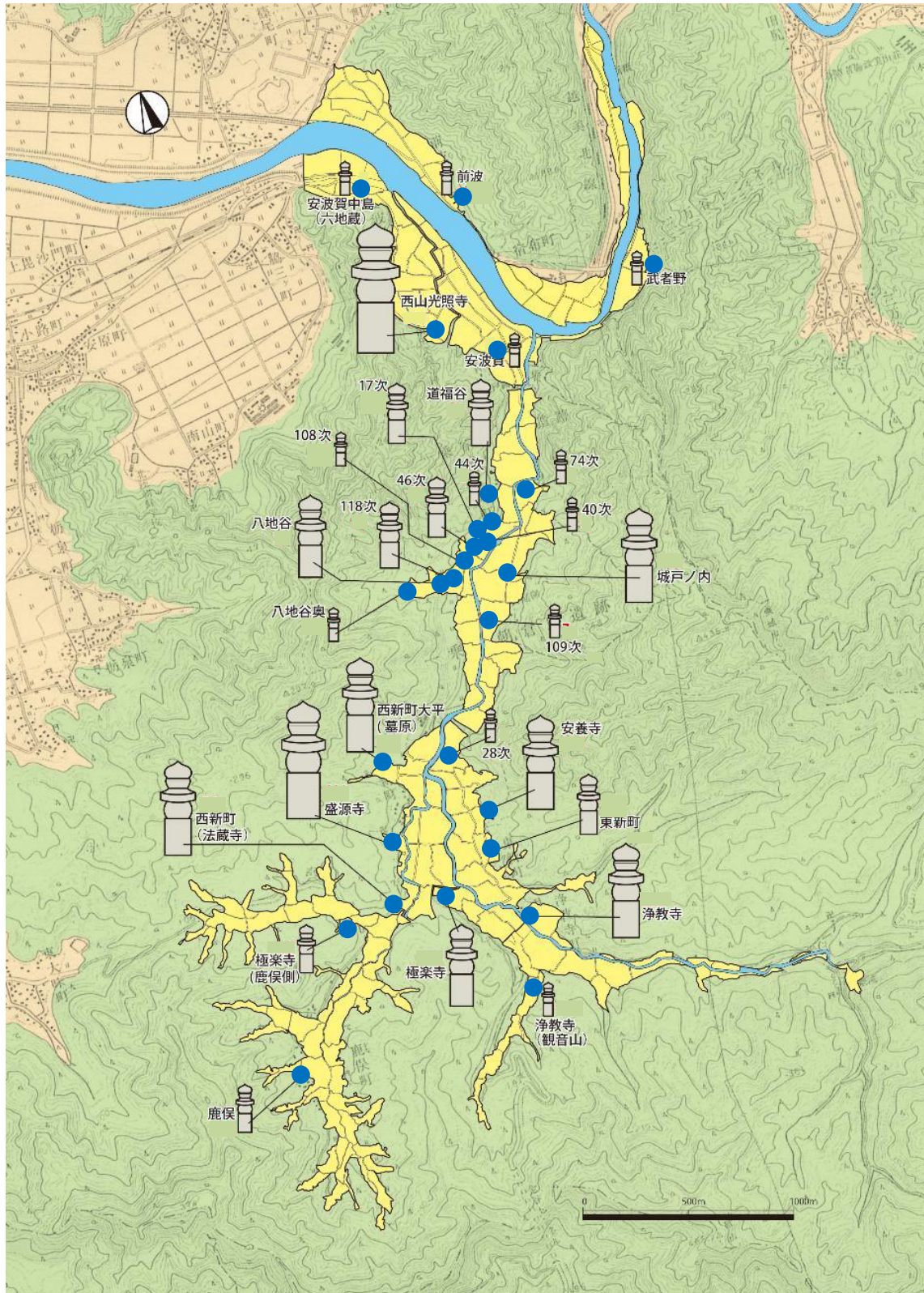
9	九頭竜川
18	大安禅寺

B エリア <一乗谷地区>



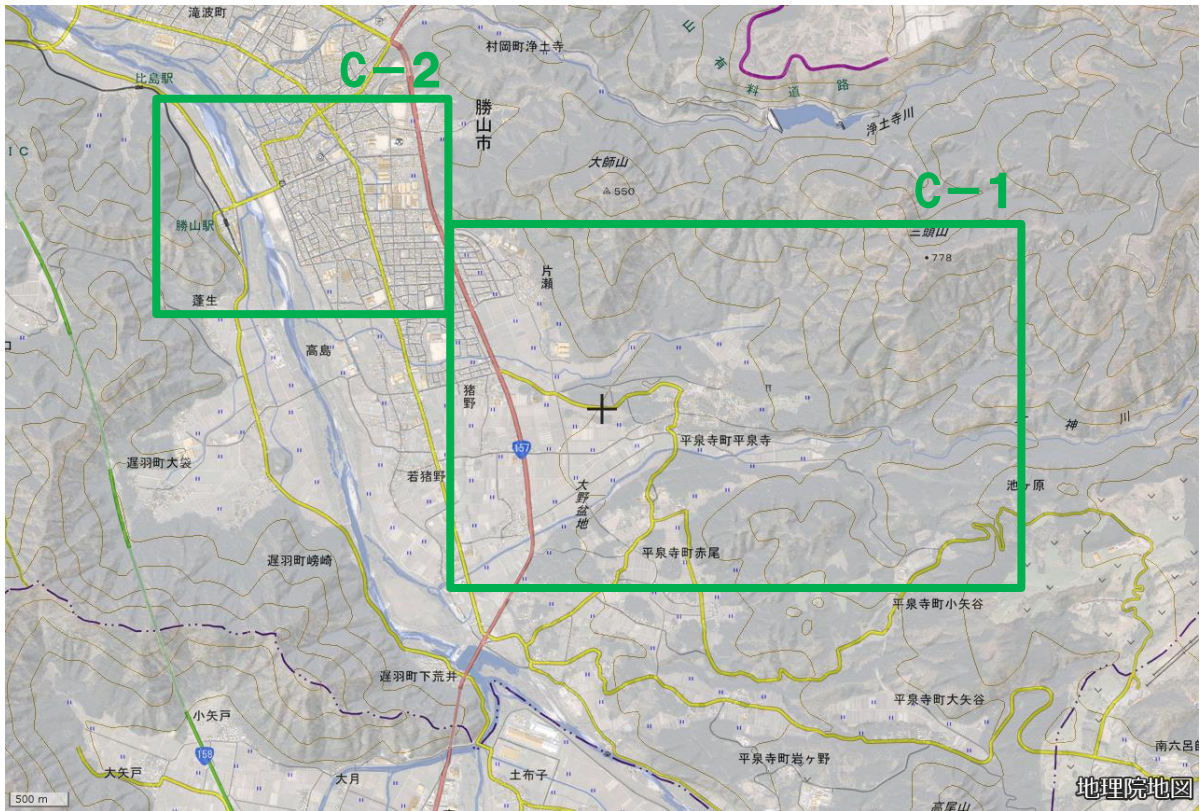
1	一乗谷朝倉氏遺跡
3	一乗谷古絵図
5	「一乗の入江」の石敷遺構
6	美濃街道
7	朝倉街道
8	安波賀街道
9	足羽川
9	一乗谷川

B エリア <一乗谷地区>

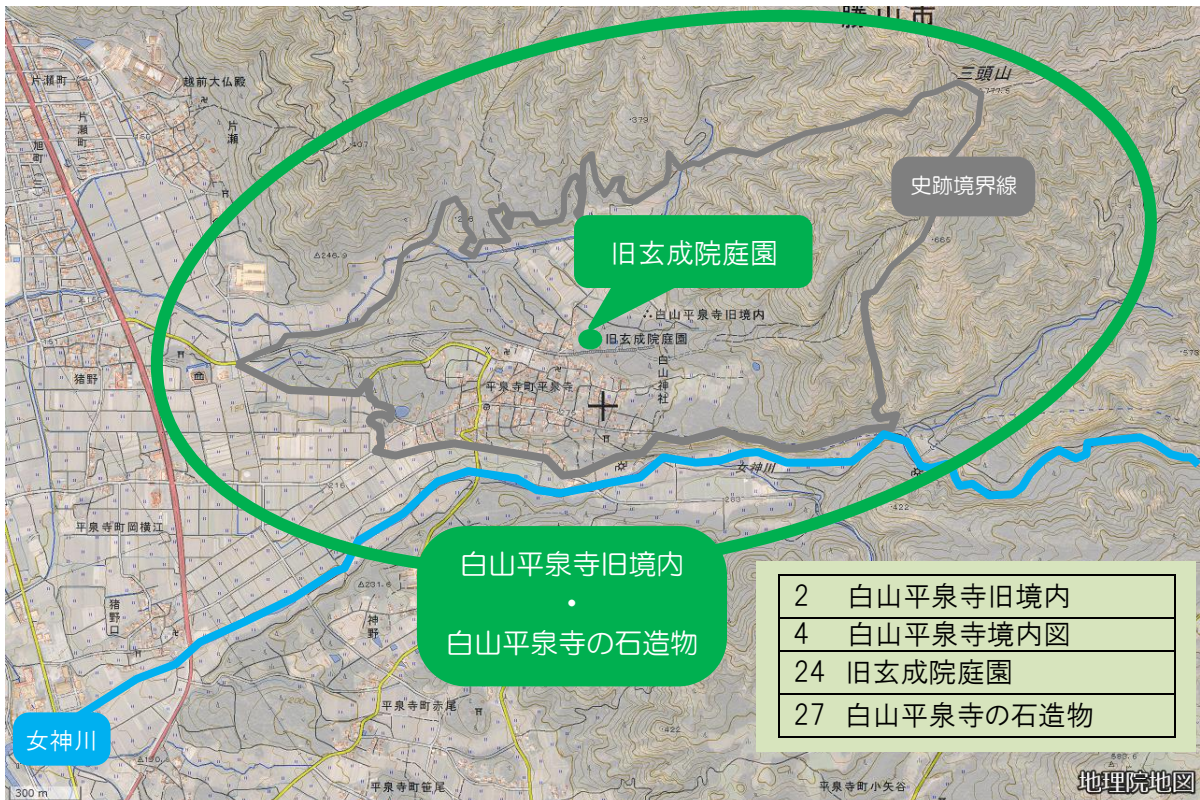


26 一乗谷朝倉氏遺跡の石造物群

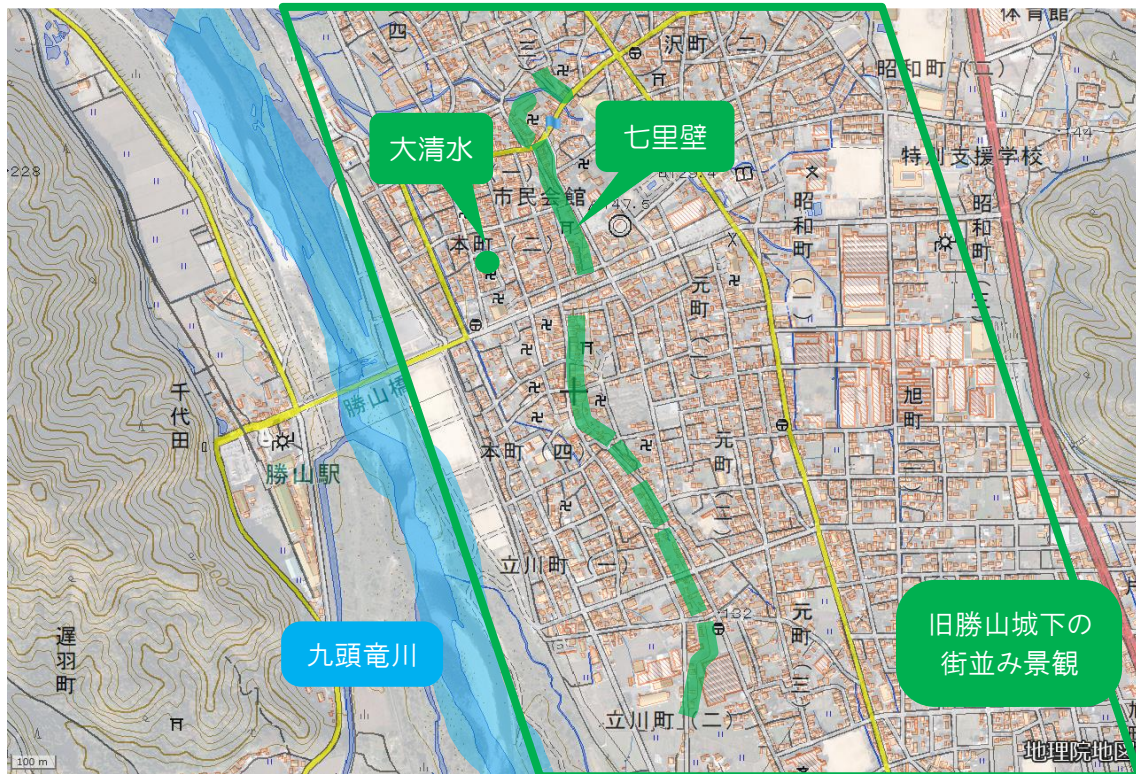
Cエリア <勝山市>



C-1 【白山平泉寺周辺】



C-2 【 勝山市街地 】



9	九頭竜川
20	七里壁
21	旧勝山城下の街並み景観
22	大清水

D エリア 【 九頭竜川・足羽川 】



D エリア 【 美濃街道・安波賀街道・朝倉街道 】



ストーリー

太古の昔より、人々は石とともに歴史を歩んできました。山から切り出され、目の前に立ちはだかる巨石の壁、整然と敷き詰められた自然石の苔むした石畳、屋敷を支える無数の礎石や石垣。まちづくりに使われた石は、当時のまちの姿、武士や庶民の暮らし、人々の切なる思いなど、今を生きる私たちに語りかけます。

(石づくりの戦国城下町と中世宗教都市)

室町幕府の権威低下や商業、文化の発達に伴い、地方にも新たな都市が誕生した中世・戦国期。古代より京都から北陸道諸国を結ぶ交通の要所であった越前・福井に生まれた二つの大きな都市は今も独特の空間を醸し出しています。そこに静かに佇む石と向き合うと、栄華を極めた往時の姿が目の前によみがえります。

福井市街地から美濃街道を足羽川沿いに進み、南側へと支流が分岐した福井市の南東部。三方を山に囲まれ、川が流れる狭い谷間の平野に伝統的民家が建ち並びこの地区は、戦国大名の朝倉氏が街道や水運を巧みに利用してつくり上げ、越前国支配の拠点となった「一乗谷」です。一乗城山の麓に位置し、自然の要害としての地形を活かしたこの地は、当時、政治・文化都市として繁栄し、武家屋敷や町屋、寺院などが密集・混在した空間に約1万人が暮らしたとされます。一乗谷を訪れると、濠や土塁をはじめ、幹線道路や川の両側に計画的に配置された町並みなどに戦国期特有の城下町の姿を見てとれます。城下町入り口の下城戸の通路の両側には、他国や一向一揆



一乗谷の復原町並



一乗谷の下城戸

などの争いに備えて巨石が5メートルもの高さで積み上げられ、今も当時の緊張感を伝えています。また、谷間の傾斜地から一乗谷川へと繋がる川の護岸、船着き場や荷揚げ場の機能を果たした川湊の入江には丁寧な石積みが施され、屋敷の石垣や石製の井戸枠、さらには無数の礎石類などを見ることができます。一乗谷周辺から運ばれ、まちづくりを支えた大量の石は当時の暮らしだけでなく、城下町の賑わいや匂いまでも感じさせます。一乗谷において発展した石積みや石利用の技術は、近世以降の築城技術につながったと考えられています。

一乗谷から美濃街道をさらに東へ進み、分岐して九頭竜川を越えると、白山連峰の麓に勝山盆地が広がります。かつてこの地は白山信仰の拠点として発展し、戦国期に最盛期を迎えた白山平泉寺が支配しました。当時、白山平泉寺周辺には我が国最大級の宗教都市が形成され、最盛期には48社、36堂、そして6,000もの僧坊があったとされます。中世の巨大寺院は宗教権力として自己を防衛するために城を築きましたが、朝倉氏から自立した支配権を保障された白山平泉寺も多くの僧兵を有し、一向一揆などと戦う朝倉氏に強大な軍力で味方しました。山の谷間に約1キロメートルも連なる樹齢300年を超える杉木立の菩提林の参道の石畳は、九頭竜川や女神川の川原石を手渡しで運んでつくられたと伝えられています。一面が苔に覆われた、神秘的で幻想的な境内の礎石からは、当時、正面が80メートルにも及ぶ大拝殿があったことがわかります。山から切り出した石で築いたとされる本社の巨石の石垣は高さ3メートル、長さ110メートル以上にもわたり、巨大な壁となって人々を圧倒します。坊院跡には国内最大規模の石畳道が縦横に張り巡らされ、石組みの側溝が残るなど、計画的に町並みが整備されてい



平泉寺白山神社の参道



平泉寺白山神社の大石垣

たことに驚かされます。周辺の集落には、坊院跡の石垣を現在も当時のままの状態で見ることができる屋敷もあります。荘厳にして静寂な神域へと私たちを誘う白山平泉寺一帯に広がる石は、かつて巨大な宗教都市が確かに存在したことを思い起こさせます。戦国期、武家はこのように中世寺院が有していた石積みや石を割る技術(あぼか)をまちづくりなどに導入したと考えられ、一乗谷のまちづくりも、阿波賀街道を通じて、白山平泉寺から非常に強い影響を受けたとされています。

(近世城下町のまちづくりと石)

朝倉氏の時代に築かれた石積みなどの技術は近世以降ますます磨かれ、生産力も飛躍的に向上しました。

福井城下のまちづくりには、足羽山から採掘された美しい青色の「笏谷石」(しよくだにいし)が大量に用いられました。約1,500年前に継体天皇が見つけたとの伝説が伝わる、水に濡れると鮮やかな青緑色に変化する、とても不思議な石です。一乗谷から商人、職人が移住し、新しい越前国の城下町づくりの拠点となった北ノ庄の城主 柴田勝家が北陸道と足羽川が交わる地に架けさせた(つくもばし)とされる「九十九橋」は半分が木、半分が笏谷石でつくられていました。橋脚部

分の笏谷石は今も北ノ庄城址や福井市立郷土歴史博物館などに残り、福井の歴史の証人となっています。北ノ庄城から受け継がれ、福井市の都市建設の中心となった福井城址の石垣は約40,000個とも言われる、小さく切り出された笏谷石のみで築かれており、全国の城の中で最も美しいとされています。このほか、屋敷一帯が笏谷石採掘地跡地に静かに佇み、幕末の志士たちが密会を開いた庵として知られる「丹巖洞」や、1,360枚もの笏谷石が敷き詰められ、巨大な墓石から柵、門扉にいたるまで笏谷石が使われている松平家の廟所「大安寺千畳敷」では、笏谷石が作り出す世界そのものを体感することができます。近世期以降、北前船で日本海側沿岸の各地に運ばれた笏谷石は全国の優れた石づくり文化を支えてきましたが、笏谷石のふるさと福井では笏谷石が風景に溶け込み、晴れの日には美しい青色が宝石のように輝きを放ち、雨の日には街中が淡い青緑色のベールに包まれるようです。神社の鳥居や石段、家屋の敷石や門柱、さらには公園のモニュメントなど、笏谷石は今も福井の人々の身近な暮らしの中で見ることができます。



一方、勝山市では、中心市街地をほぼ南北方向に高さ5~7メートルの石の壁が断続的に続いています。これは九頭竜川の浸食と堆積、土地の隆起の繰り返しという自然の力によってつくられた河岸段丘をまちづくりに活用したもので、長さが20キロメートル余りもあることから「七里壁」と呼ばれています。江戸時代にはこの壁を境に、石垣の上の段丘面に武家屋敷が、石垣の下の低い段丘面には町家・寺院が配置され、南北の道路で整然と区割りされた城下町が形成されていました。街を東西に横切る小路は「おたね坂」や「小姥坂」などのように逸話から名付けられた坂道となっており、段丘の最も低い面からは伏流水となった清水が今も湧き出しています。福井平野を潤す九頭竜川の中流域沿岸に形成されたこの地では、大地が奏でる時の流れの音を感じながら、風情のある城下町の面影を偲ぶことができます。

(石に現れた日本人の美と信仰)

石はまちづくりに用いられただけでなく、日本人の自然観や精神文化を象徴する独自の芸術作品を生み出しました。

福井では、華やかな戦国文化の隆盛を物語る、多様な戦国期様式の庭園群が往時そのままの姿で出迎えます。池泉回遊式庭園の4メートルを超える滝副の巨石は中世都市の栄華を象徴するようであり、荒々しく石が組まれた勇壮な庭園は戦国武士の真の気迫を漂わせます。客人をもてなすためにつくられた平庭の美しい流れ模様の海石は見る者すべてを非日常の世界へと導き、枯山水の庭園では石と苔と古木が幽玄な世界をつくり出しています。今も豊かな自然景観と重なり合う、これらの庭園群を見れば、戦国期の日本人の美意識の神髄に触れることができます。



近世期、松平家の別邸であった「養浩館庭園」では、東尋坊で知られる越前海岸の柱状節理の岩柱などが印象的に用いられているほか、福井県内の名石を見ることができます。数寄屋造りの建物と調和した、水の景と石の景が作り出す空間からは、日本人独自の奥深く、豊かな侘び・寂びの世界を感じ取ることができます。

一乗谷周辺には戦国期の石仏や石塔などが全国でも例がないほど数多く残っています。繊細で優美な石仏の表情からは、戦国期の人々の祈りや鎮魂への思いが今も伝わってきます。このほか、福井の神社では美しい造形の狛犬を数多く見ることができますが、彫りが見事であるだけでなく、髪型や尾の形などにそれぞれ特徴があり、とても個性的です。

福井を訪れると、石が季節と織りなす美しい光景に毎年出会うことができます。春、残雪輝く奥越前の山並みを背に咲き乱れる九頭竜川の弁天桜。夏、杉木立に差し込む光に優しく包まれた平泉寺白山神社の苔の絨毯。秋、澄み切った朝の日差しを受けて水面に浮かぶ一乗谷の池泉庭園の散紅葉。冬、水墨画のような雪景色の中、新しい春を待ち焦がれる養浩館庭園の梅の蕾。越前・福井では、石が悠久の時を刻み続ける歴史の物語を私たちに届けてくれるのです。



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
(石づくりの戦国城下町と中世宗教都市)				
1	いちじょうだにあさくらし いせき 一乗谷朝倉氏遺跡	国指定 (特別史跡)	計画的につくられた町全体が良好に残る戦国期最大の遺跡。遺跡内には町屋や武家屋敷など、発掘されたそのままの石垣や礎石を生かして当時の町並みを忠実かつ立体的に再現した復原町並があり、戦国時代の城下町の実像を体感することができる。	福井市
2	はくさんへいせんじ 白山平泉寺 きゅうけいだい 旧境内	国指定 (史跡)	奈良時代に白山を開山した泰澄によって越前側の登拝口に創建された山岳寺院で、一般的には平泉寺の名で知られる。境内には、発掘された石畳道や坊院の石垣が良好に残る。明治初年の神仏分離令により平泉寺の寺号を廃止し、白山神社となって今に至る。	勝山市
3	いちじょうだにこ え ず 一乗谷古絵図	未指定 (歴史資料)	江戸末期の一乗谷の風景を描く古絵図。山城や有力家臣の屋敷跡や寺院跡など、戦国時代の城下町の構造物が76カ所も記載されている。	福井市
4	はくさんへいせんじけいだいず 白山平泉寺境内図	未指定 (歴史資料)	中世の平泉寺を描いた古絵図。境内には、48社、36堂、6,000の坊院が建ち並んだとされる。	勝山市
5	いちじょう いりえ 「一乗の入江」の いしじまいこう 石敷遺構	未指定 (遺跡)	船着き場や荷揚げ場の機能を果たし、川湊を持った流通拠点「一乗の入江」の一角とみられる遺構。川湊側は一段低く、表面に平らな石が積まれ、荷物を積み下ろしやすくなっている。	福井市
6	みのかいどう 美濃街道	未指定 (遺跡)	国外への派兵や物資の移動など、朝倉氏の領国支配に重要な役割を果たした街道の一つ。越前から美濃へ続く街道沿いには朝倉氏家臣の屋敷跡も見られる。	福井市
7	あさくらかいどう 朝倉街道	未指定 (遺跡)	朝倉氏の領国支配を支えた街道の一つであり、越前国内の各地を軍事的、経済的に結び付けた。街道沿いには朝倉氏の遺跡や伝承が数多く残されている。	福井市
8	あばかかいどう 安波賀街道	未指定 (遺跡)	一乗谷と白山平泉寺を最短で結んだ古道で、街道沿いには朝倉氏家臣の城跡や石仏などが残る。3	福井市 勝山市

9	くずりゆうがわ あすわがわ 九頭竜川・足羽川・ いちじょうだにかわ 一乗谷川	未指定 (遺跡)	一乗谷や白山平泉寺に見られる巨石や交易の品々が行き交うなど、都市の繁栄に大きな役割を果たした。足羽川は九頭竜川水系日野川の支流であり、福井市街地を流れる。足羽山から切り出された笏谷石は船に乗せられ、九頭竜川を下り、三国湊から全国各地にも運ばれた。	福井市 勝山市
10	いちじょうだにあさくらし いせき 一乗谷朝倉氏遺跡 しゅつどひん 出土品	国指定 (美術品)	一乗谷を発掘すると、土器・陶磁器などの遺物とともに多様な石製品が多数出土する。石材の多くは笏谷石であるが、一乗谷の奥に位置する浄教寺の砥山は近世期には全国的にも知られた、優れた砥石の産地であったことから、刃物を研ぐための中砥や仕上げ砥も出土している。	福井市
11	はくさんへいせんじしゅつどひん 白山平泉寺出土品	未指定	坊院は宗教的市施設であると同時に、僧侶の日常生活空間であったことから、坊院跡からは調理・食膳具などのほか、笏谷石製の行火なども見つかっている。	勝山市
(近世城下町のまちづくりと石)				
12	しゃくだにいし 笏谷石	未指定 (地質鉱物)	足羽山山麓部の通称「笏谷」付近を中心に産出し採掘された火山礫凝灰岩。水に濡れると深い青色に変化するため「青石」とも呼ばれる、福井の名石。約 1,500 年前に継体天皇が発見し、採掘を指示したという言い伝えが残る。平成 11 年に採掘は終了したが、採掘坑道跡や露天掘り跡などが数多く存在する。なお、一乗谷の武家屋敷や町屋からは多数の笏谷石製の生活道具が出土している。	福井市
13	きたのしょうじょうし 北ノ庄城址	未指定 (遺跡)	織田信長による朝倉氏滅亡後、織田家筆頭家老 柴田勝家によって築城された巨大城郭跡。笏谷石製の石瓦で葺かれていたとされる。	福井市
14	つくもぼし 九十九橋	未指定 (建造物)	足羽川に架かる橋。かつては、半石半木という稀にみる工法でつくられた橋であり、江戸時代には全国的な名橋・奇矯として全国に広く知られていた。現在も、北ノ庄城址や福井市立郷土歴史博物館に当時の橋脚が残る。	福井市
15	ふくいじょうし 福井城址	未指定 (遺跡)	慶長 6 年から 6 年をかけて福井藩主 結城秀康が築城した福井城は本丸を中心に、二の丸、三の丸、四の丸と四重の堀に囲まれていた。笏谷石で造られた本丸の石垣と堀が今も良好に今も残る。	福井市
16	しばはらようすい 芝原用水	未指定 (文化的景観)	結城秀康が北庄城（福井城）の大改修の際、飲料水確保を目的に造らせた上水路。底部には笏谷石の割石が敷き詰められ、両側にも笏谷石の石垣が整然と積まれていた。藩主別邸の御泉水屋敷（現 養浩館庭園）の泉水や城郭の堀への取水などにも使われた。	福井市

17	たんがんどう 丹巖洞	国登録 (建造物)	足羽山山麓の笏谷石採掘跡地に建てられた、福井藩医 山本瑞庵が別荘として営んだ草庵。幕末には福井藩主 松平春嶽を初め、志士たちが密会を開いた場所として知られる。笏谷石の採掘跡の洞と庭園に当時の雰囲気が残る。	福井市
18	だいあんぜんじ 大安禅寺	国指定 (建造物)	福井藩第4代藩主 松平光通によって明暦3年(1657)創建。本堂から300メートルほどの南西の山中には、笏谷石で造られた松平家歴代藩主の廟所である「千畳敷」がある。	福井市
19	あすわやましゅうへん けいかん 足羽山周辺の景観	未指定 (文化的景観)	足羽山山頂へと続く愛宕坂、百坂などの石段には笏谷石が使われており、周辺には笏谷石の採掘地跡が残る。また、足羽山およびその周辺には寺社が多く、鳥居や灯籠、踏石などに笏谷石が特に多く使われているなど、笏谷石文化の集積地となっている。	福井市
20	しちりかべ 七里壁	未指定 (遺跡)	九頭竜川の中流右岸に見られる河岸段丘の段丘崖。江戸時代には崖の上の段丘面にある武家屋敷地区と段丘崖下沖積低地にある町家地区を区分した。この間にはいくつもの狭い坂がある。	勝山市
21	きゅうかつやまじょうか 旧 勝山城下の まちなみけいかん 街並み景観	未指定 (文化的景観)	江戸時代、七里壁の段丘上に沿ってつくられた勝山藩主 小笠原氏の城下町の旧市街地では今も城下町の風情を感じることができる。七里壁より下の段丘面で生活をしていた町人の行事として始まった「勝山左義長」は、300年以上続く福井県下最大の左義長である。	勝山市
22	おおしょうず 大清水	未指定 (遺跡)	勝山市の中心街地を形成する河岸段丘の最も低い段丘面から湧き出している湧水。この段丘面より高い位置にある段丘面の河川の水や雨水が地下に浸透したものである。	勝山市
(石に現れた日本人の美と信仰)				
23	いちじょうだにあさくら していえん 一乗谷朝倉氏庭園	国指定 (特別名勝)	林泉式庭園の湯殿跡庭園、諏訪館跡庭園、南陽寺跡庭園、朝倉館跡庭園の特別名勝庭園を初め、遺跡内では15か所以上の庭園が確認されている。長らく土に埋もれていたため、石組は比較的よく原形を残し、室町末期の庭園様式を今によく伝えている。	福井市
24	きゅうげんじょういん していえん 旧 玄成院庭園	国指定 (名勝)	室町時代末期に作庭された北陸地方に現存する最古の庭園と伝わる回遊式枯山水庭園。正面上段の築山には立石・伏石による石組が施され、築山前面に配置された枯山には枯滝とみられる滝石組や大きな自然石の出島などがある。	勝山市
25	ようこうかんでいえん 養浩館庭園	国指定 (名勝)	江戸時代「御泉水屋敷」と呼ばれた福井藩松平家の別邸の廻遊式林泉庭園。空間構成や石橋、景石等が江戸時代の大名庭園の様子をよく伝えている。	福井市
26	いちじょうだにあさくら し 一乗谷朝倉氏 いせき せきぞうぶつ 遺跡の石造物	未指定 (彫刻)	笏谷石からつくられた石仏群は、西山光照寺跡や盛源寺などに数多く残り、その石仏・石塔(約6,000点)は一乗谷の繁栄ぶりを物語る。	福井市

27	はくさんへいせんじ 白山平泉寺の せきぞうぶつ 石造物	未指定 (彫刻)	白山平泉寺旧境内には、廃仏毀釈などにより破損した石仏が点在し、戦国時代、僧侶の墓地であった平泉寺墓地には、平泉寺を再興した顕海和尚など住職の墓のほか、400 年以上前の石仏・五輪塔などが混在している。	勝山市
----	--	-------------	--	-----

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1 いちじょうだにあさくらし いせき
一乗谷朝倉氏遺跡



2 はくさんへいせんじきゆうけいだい
白山平泉寺旧境内



3 いちじょうだにこえず
一乗谷古絵図



4 はくさんへいせんじけいだいず
白山平泉寺境内図



5 いちじょう いりえ いしじきいこう
「一乗の入江」の石敷遺構



6 みのかいどう
美濃街道



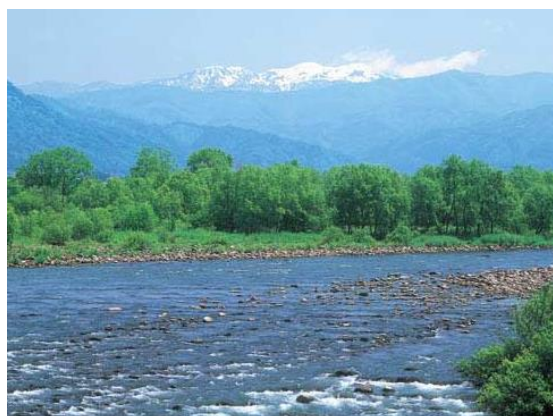
7 あさくらかいどう
朝倉街道



8 あばかかいどう
安波賀街道



9 くざりゆうがわ
九頭竜川



9 あずわがわ
足羽川



9 いちじょうだにかわ
一乗谷川



10 いちじょうだにあさくらし いせきしゆつどひん
一乗谷朝倉氏遺跡出土品



1 1 はくせんへいせんじしゆつどひん
白山平泉寺出土品



1 2 しゃくだにいし
笏谷石



1 3 きたのしょうじょうし
北ノ庄城址



1 4 つくもぼし
九十九橋



1 5 ふくいじょうし
福井城址



1 6 しばらようすい
芝原用水



17 たんがんどう
丹巖洞



18 だいはんぜんじ
大安禅寺



19 あすわやましゅうへん けいかん
足羽山周辺の景観



20 しちりかべ
七里壁



21 きゅうかつやまじょうか まちなみけいかん
旧勝山城下の街並み景観



22 おおしょうず
大清水



23 いちじょうだにあさくら していえん
一乗谷朝倉氏庭園



24 きゅうげんじょういんていえん
旧玄成院庭園



25 ようこうかんでいえん
養浩館庭園



26 いちじょうだにあさくら し いせき せきぞうぶつ
一乗谷朝倉氏遺跡の石造物



27 はくさんへいせんじ せきぞうぶつ
白山平泉寺の石造物



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

◆実現したい姿

①足羽山が位置する「福井市街地」、②一乗谷朝倉氏遺跡が位置する「福井市東部」、③白山平泉寺が位置する「勝山市」の3つのエリアを、周遊観光できる「石づくり文化の日本遺産体感エリア」として魅力を高め、地域活性化を図る。

◆地域の長期的構想(総合計画等)への日本遺産の位置づけ

福井県内では、2022年度末に北陸新幹線敦賀開業(金沢～敦賀)が予定され、中部縦貫自動車道大野油坂道路(大野～岐阜県白鳥)についても同時期の全線開通を目指し整備が進められている。このため、福井県では、これに合わせ「福井県高速交通開通アクション・プログラム」(H28.3)を策定し、高速交通ネットワークの進展を見据えた戦略プロジェクトを展開しているが、その基本戦略の1つに、県内各地に残る歴史遺産等の価値を高め、活用を推進することが掲げられている。特に一乗谷朝倉氏遺跡や白山平泉寺など歴史的に高い評価を受けている歴史遺産については、重点的にその活用を図るとともに、地域住民が主体となった積極的な活動につなげ、来訪者に感動と楽しみを与える地域の創造を目指すことを目標としており、北陸新幹線敦賀開業までに日本遺産認定の実現を図ることとしている。

福井市の「第七次福井市総合計画」(H29.3)においては、郷土の文化財を福井の魅力として活用することが主要施策として掲げられ、一乗谷朝倉氏遺跡については「別格の観光地として情報発信をさらに強化するとともに、日本一の戦国城下町のフィールドミュージアムを目指し、ソフト、ハード両面から取り組みを進めること」、また、まちなかでは「養浩館庭園など、歴史的な観光資源のさらなる活用を図り、風格あるまちづくりと連携した周遊性向上に取り組むこと」が施策として記載されている。

勝山市の「第5次勝山市総合計画(改訂版)」(H29.3)では、勝山市の地形などの特性により育まれた自然、歴史や文化等の地域資源を守り、活用することにより、地域の持続可能な発展のためのまちづくりを進めることを基本政策として掲げられ、特に歴史遺産を活かしたまちづくりの実現に向けては、白山平泉寺旧境内をまちづくりの中核に据えるとともに、世界遺産や日本遺産への登録を推進することとしている。

(2) 地域活性化のための取組の概要

(1)より多くの人に、行きたい!と思えるように様々な方法で「魅力を発信する」(情報発信)

- ・地域の資源の魅力を最大限に生かし、より多くの人に広域的に観光地としての魅力を高め様々な手段で発信する。
- ・主要な3つのエリアを周遊し、エリア全体の交流人口の拡大を図る。

①国内への魅力発信事業

- ・観光客等をひきつける魅力ある写真や動画を作成、収集し、インターネットのポータルサイト、SNS、動画サイトなどを通じて世界中に発信
- ・一乗谷や白山平泉寺の周辺、および足羽山周辺などの笏谷石が特徴的に使われたスポットを広報するマップやパンフレットなどの作成
- ・スマートフォン等による多言語による案内アプリの開発

②インバウンド向け魅力発信事業

- ・ホームページ、パンフレット、マップ、アプリ等の多言語化
- ・ガイドによる外国人観光客のアプリへの誘導等の周知

(2)文化財の魅力を地域の人が「知る」「語る」「誇りに思う」(普及啓発・人材育成)

- ・案内拠点の学芸員や地元のボランティア団体が一丸となり、地域の人がある魅力を知る機会を定期的につくる。
- ・地域の人があるさとの歴史や魅力を再認識することにより、発信者となって他地域から来た人にその魅力を伝える。
- ・地域の人語り、他地域から来た人から直接反応を受けることにより、地元へ愛着が生まれ、誇りを感じる。
- ・こうして、地域の住民が主体となり積極的に事業に参画し、住民が愛着が持てる活力ある地域を創造することを目的とする。

①人材育成事業

- ・日本遺産のストーリーガイドの育成
- ・子ども用学習教材の作成

②普及啓発事業

- ・講座の開催
- ・身近な笏谷石について地元住民が再認識できるよう、勉強会やイベント、街歩きツアーなどを実施
- ・笏谷石、一乗谷朝倉氏遺跡および白山平泉寺に関連する石造物パネルなどの巡回展示や講演会の開催
- ・福井市自然史博物館、一乗谷朝倉氏遺跡資料館および白山平泉寺歴史探遊館「まほろば」において、子どもを対象にした教育素材の提供や学習会を開催するなど、ふるさと教育の推進

(3)文化財の魅力を「より深く知る」「より長く保つ」ことで「ストーリーを広げる」(調査研究)

- ・すべての基礎となる調査研究を地道に行い、文化遺産の価値をより高める。
- ・発掘した文化遺産を長く後世に引き継ぐため、文化財の劣化を防いで保護する。
- ・これらを通じて、ストーリーに広がりを持たせ、魅力を磨き上げることを目的とする。

①調査研究事業

- ・白山平泉寺と一乗谷の石積み、石利用などに関する調査研究
- ・一乗谷および白山平泉寺を最短コースで結んだ重要な古道「阿波賀街道」の調査研究

②構成文化財保護の推進事業

- ・一乗谷朝倉氏遺跡・平泉寺 発掘調査事業等
- ・石造物の保全事業

(4)文化財の魅力を公開發信するための「基盤を整える」(公開活用のための整備)

- ・文化財の魅力を発信する拠点を整備し、展示を充実、定期的に更新する。
- ・北陸新幹線敦賀開業や中部縦貫自動車道大野油坂道路の開通を契機に、駅やインターチェンジからの周遊コースを設定する。
- ・駅から拠点への直行バスやレンタカーなど二次交通の検討や、マイカーでの観光する場合の対応を強化する。
- ・このほか、研究成果を公開することなどにより、受入れ態勢を整えることを目的とする。

①公開活用整備事業

- ・観光駐車場を有料化し維持管理を充実させる。

②一乗谷朝倉氏遺跡博物館整備事業

- ・一乗谷朝倉氏遺跡の拠点として博物館の整備を行う。

【連携方法】

福井県では、県内を代表する貴重な歴史遺産であり、観光資源でもある一乗谷朝倉氏遺跡の活用を図るため、福井市や関係団体とともに組織した「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」を中心に、観光振興やイメージアップ活動を継続して行っている。白山平泉寺についても、「平泉寺まちづくり委員会」などの団体が境内の環境美化やまちづくり活動に取り組んでいる。また、笏谷石についても、1,500年の歴史と笏谷石文化を後世に伝えていくことを目的に「ふくい笏谷石の会」が組織され、講演会やホームページ等を通じた情報発信など独自の活動を展開している。

日本遺産に認定された際には、ストーリーのテーマに基づき、これらの団体が一体となり、また関連する民間団体や企業などとも連携を深めながら、地域活性化を目的とした活動に取り組むこととする。また、JR福井駅前に位置するウェルカムセンター(福井市観光案内所)を3つのエリアを周遊する案内拠点とし、福井市自然史博物館、一乗谷朝倉氏遺跡資料館および白山平泉寺歴史探遊館「まほろば」を日本遺産のストーリーおよび構成文化財を詳しく知るための拠点施設に位置付けるなど、連携した取組みを進める。

(3) 自立的・継続的な取組

- ・日本遺産認定された際には、まずは行政側が有する広報媒体を通じ、日本遺産認定の意義やストーリーの内容を地域に浸透させる。
- ・日本遺産魅力発信推進事業の活用にあたっては、今後、地域住民や団体が自立して、継続的事業を展開できるためのきっかけづくりとなるようなツール等の作成に主眼を置く。
- ・また、県、福井・勝山両市および関係団体等が実施する事業においても、日本遺産認定を地域活性化推進のためのブランドとして活用し、県内外、国内外へ情報を発信する。
- ・併せて、地元企業との連携による商品開発など、民間企業や団体との協力体制の構築に努める。

(4) 実施体制

(1)協議会を組織するとともに、事務局としての連絡会組織を設置

[構成団体]

(名 称) 福井・勝山の日本遺産活用推進協議会(仮称)

(構成団体) 福井県(文化振興課、観光振興課、生涯学習・文化財課)

福井市(文化振興課、おもてなし観光推進室)

勝山市(史蹟整備課、観光政策課、ジオパークまちづくり課、未来創造課)

一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会、平泉寺まちづくり委員会、ふくい笏谷石の会 など

※日本遺産認定後、各地域において連携を必要とする地域団体を随時加盟

(例) (公社)福井県観光連盟、福井観光コンベンションビューロー、

(一社)朝倉氏遺跡保存協会、(公財)歴史のみえるまちづくり協会

勝山市観光まちづくり会社、勝山市観光ガイドボランティア、

白山平泉寺サポーターズクラブ

(2)「石」という新たな切り口で地域活性化を図るため、助言を得るためのアドバイザーを委嘱

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：別紙①のとおり

期待される効果：

- ・笏谷石の採掘地であった足羽山周辺、一乗谷朝倉氏遺跡および白山平泉寺旧境内を核として、福井市街地、福井市東部および勝山市を結ぶエリアの一体的かつ広域的な観光振興が図られるとともに、交流人口が拡大し、地域経済の活性化が見込まれる。
- ・中世期の我が国を代表する都市「一乗谷」および「白山平泉寺」について、両遺跡を学術的に比較することにより、戦国時代のまちづくりに関する研究が進展する。さらには全国の戦国期の都市との比較研究なども期待される。
- ・生活に身近な笏谷石関連の歴史遺産についての調査や観光面での活用が進むことが期待される。また、現在では採掘されなくなった笏谷石の価値について地域住民が再認識するとともに、全国の笏谷石文化を築いてきたふるさととしての誇りの意識が醸成される。

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

別紙②のとおり

事業費：

平成31年度：

39,000千円

平成32年度：

14,500千円

平成33年度：

12,000千円

(7) その他事業

別紙③のとおり

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込数
具体的な指標：	福井市および勝山市の観光客入込数
関連事業：	(6) ①④⑤⑥ (7) ①～⑭、⑰⑱⑳
目標値：	平成 29 年度 6,041,000 人 ⇒ 平成 36 年度 6,343,000 人
設定根拠：	平成29年の福井市および勝山市の観光客入込数を基礎に平成36年度は5%増加とする。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	地域住民を対象に実施する講座等のアンケート調査において「地域の文化に誇りを感じる住民」の割合
関連事業：	(6) ③ (7) ⑮⑯
目標値：	平成 31 年度 100 指数 ⇒ 平成 36 年度 125 指数
設定根拠：	評価指標をもとにしたアンケート調査を平成31年度に実施し、その結果を基礎として、毎年度5指数ずつ増加させる。
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産への協力者数
具体的な指標：	ボランティアの会員数
関連事業：	(6) ② (7) ⑱⑳
目標値：	平成 31 年度 15 人 ⇒ 平成 36 年度 65 人
設定根拠：	平成31年度より募集を開始し、毎年度10名の増加を目指す。

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①： 福井・勝山の歴史文化発信事業			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 30,000千円	平成32年度： 15,000千円	平成33年度： 5,000千円
事業概要：	日本遺産ストーリーの共通PR素材として、外国人観光客等をひきつける魅力ある写真や動画を撮影・収集し、これら素材を活用したリーフレットやパンフレット、ホームページなどによるPRを行うことによりストーリーをわかりやすく発信するとともに、観光客等がエリアを周遊できるよう、スマートフォン用アプリなどを開発する。併せて、情報発信を含む、日本遺産魅力発信事業全体を効果的に実施できるよう、観光振興・地域活性化の専門家をアドバイザーとして委嘱する。		
具体的な指標：	ホームページ閲覧数 (PV数)		
目標値：	平成 31 年度 1,000 件 ⇒ 平成 36 年度 10,000 件		
事業②： ボランティアガイド等育成事業			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 1,000千円	平成32年度： 1,500千円	平成33年度： 1,000千円
事業概要：	国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーを深く理解し、エリアを周遊することができるよう、ガイドブックを作成し、地域のボランティアガイドや通訳ガイドの育成・支援を進める。		
具体的な指標：	ガイド利用団体数		
目標値：	平成 31 年度 5 団体 ⇒ 平成 36 年度 60 団体		
事業③： 地域の歴史文化遺産再発見事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 3,000千円	平成32年度： 5,000千円	平成33年度： 2,000千円
事業概要：	地域住民自身がふるさとの歴史を理解し、語り伝えることができるよう、地域住民や子どもなどを対象にした講座や講演会、街歩きツアー、シンポジウムなどを開催する。		
具体的な指標：	日本遺産の認知度		
目標値：	平成 31 年度 10 % ⇒ 平成 36 年度 85 %		
事業④： エリア周遊旅行商品等開発事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 3,000千円	平成32年度： 2,000千円	平成33年度： 1,000千円
事業概要：	日本遺産認定エリアを観光客が周遊できるよう、旅行関連業者などを対象にしたモニターツアーを実施し、商品化に結び付ける。		
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数		
目標値：	平成 31 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 5 件		
事業⑤： 構成文化財調査研究事業			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 32 年度 ~ 平成 33 年度
事業費：	平成31年度： 2,000千円	平成32年度： 3,000千円	平成33年度： 3,000千円
事業概要：	日本遺産のストーリーを構成しながらもこれまでに十分な調査研究が行われていない構成文化財の調査研究を実施し、その成果を発表する。		
具体的な指標：	調査研究拠点施設の入館者数		
目標値：	平成 28 年度 108,344 人 ⇒ 平成 36 年度 130,012 人		

事業⑥：日本遺産説明案内看板等設置事業			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	平成 32 年度 ~ 平成 32 年度
事業費：	平成31年度： — 千円	平成32年度：	3,000千円
		平成33年度：	— 千円
事業概要：	日本遺産の構成文化財を紹介するための説明案内看板等を設置する。		
具体的な指標：	関連施設への入込数		
目標値：	平成 28 年度	108,344 人	⇒ 平成 36 年度 130,012 人

(7) その他事業

事業①:	「一乗谷ミュージアム」化推進事業		
実施主体:	福井県	事業期間:	平成 27 年度 ~ 平成 34 年度
事業概要:	一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)の整備や博物館開館後の特別展開催に向けた調査・研究等		
事業②:	一乗谷朝倉氏遺跡 発掘調査事業		
実施主体:	福井県	事業期間:	昭和 42 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要:	学術的な発掘調査を実施し、戦国城下町の人々の生活様式等を解明する。		
事業③:	一乗谷朝倉氏遺跡 復原整備事業		
実施主体:	福井県	事業期間:	昭和 42 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要:	発掘調査成果を受けて、検出した遺構の保存を行いながら、当時の様子を復原する。		
事業④:	一乗谷朝倉氏遺跡 重要文化財保存修理事業		
実施主体:	福井県	事業期間:	昭和 42 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要:	朝倉氏遺跡出土の重要文化財の保存処理を行う。		
事業⑤:	一乗谷朝倉氏遺跡出土遺物保存処理事業		
実施主体:	福井県	事業期間:	平成 1 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	遺跡で出土した大量の木製品や金属製品などの遺物の保存処理を行う。		
事業⑥:	一乗谷朝倉氏遺跡資料館レベルアップ事業		
実施主体:	福井県	事業期間:	平成 25 年度 ~ 平成 32 年度
事業概要:	豊富な出土資料に関する情報の公開とその価値のアピールを行う。		
事業⑦:	一乗谷朝倉氏遺跡資料館企画展開催事業		
実施主体:	福井県	事業期間:	昭和 61 年度 ~ 平成 31 年度
事業概要:	調査研究成果をもとに歴委資料などを公開展示を行う。		
事業⑧:	一乗谷朝倉氏遺跡研究協議会開催事業		
実施主体:	一乗谷朝倉氏遺跡研究協議会	事業期間:	昭和 47 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	一乗谷朝倉氏遺跡遺跡の保存整備に関する計画の協議および実施上の重要事項の調査研究を行う。		
事業⑨:	特別名勝庭園保存活用計画策定事業		
実施主体:	福井市	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度
事業概要:	一乗谷朝倉氏遺跡内の庭園保存活用に向けた計画策定		
事業⑩:	一乗谷ディスカバリープロジェクト		
実施主体:	福井市	事業期間:	平成 21 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	一乗谷でのトークショーやイベント等の開催		
事業⑪:	一乗谷朝倉特急バスの運行		
実施主体:	福井市	事業期間:	平成 27 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	福井駅から一乗谷等を結ぶ特急バスの運行		
事業⑫:	白山平泉寺発掘調査事業		
実施主体:	勝山市	事業期間:	平成 31 年度 ~ 平成 31 年度
事業概要:	白山平泉寺の発掘調査により出土した遺物などの学術研究成果報告書の作成・公開		

事業⑬：	世界遺産登録推進事業		
実施主体：	勝山市	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 35 年度
事業概要：	白山平泉寺をはじめとする博山麓の世界遺産登録を目指した、関係自治体と連携した講演会やPR事業		
事業⑭：	白山平泉寺環境向上事業		
実施主体：	勝山市	事業期間：	平成 31 年度 ~ 平成 35 年度
事業概要：	観光駐車場の有料化収入による白山平泉寺の維持管理充実		
事業⑮：	朝倉氏の歴史・文化を活用した地域活性化事業		
実施主体：	朝倉氏遺跡活用推進協議会	事業期間：	平成 25 年度 ~ 平成 年度
事業概要：	戦国期の越前・若狭を物語る伝承等の調査、ガイドブックの発行等		
事業⑯：	朝倉氏遺跡内アクセス環境整備事業		
実施主体：	朝倉氏遺跡活用推進協議会	事業期間：	平成 22 年度 ~ 平成 年度
事業概要：	山城登山道の整備、一乗谷周遊バスの運行、レンタサイクルの貸出し等		
事業⑰：	朝倉氏遺跡案内・サービスの充実		
実施主体：	朝倉氏遺跡活用推進協議会	事業期間：	平成 22 年度 ~ 平成 年度
事業概要：	スマートフォンアプリ等による案内情報提供や案内ボランティアの研修等		
事業⑱：	戦国城下町生活再現事業		
実施主体：	朝倉氏遺跡活用推進協議会	事業期間：	平成 27 年度 ~ 平成 年度
事業概要：	一乗谷朝倉氏遺跡復原町並内での地元劇団員による戦国時代の生活再現の実施等		
事業⑲：	遺跡内景観向上事業		
実施主体：	朝倉氏遺跡活用推進協議会	事業期間：	平成 26 年度 ~ 平成 年度
事業概要：	あさくら景観づくりサポーターズなど県民参加による遺跡内景観の向上		
事業⑳：	朝倉トレイルラン		
実施主体：	越前朝倉トレイルラン実行委員会	事業期間：	平成 27 年度 ~ 平成 年度
事業概要：	一乗谷朝倉氏遺跡周辺の山をコースとしたマラソン大会		